

最上地区 学力向上プラン

令和8年4月
最上教育事務所

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現

授業改善へのアクション R7.10月～

教科の本質を捉えた基礎的・基本的な知識・技能の
「定着」を目指した授業づくりの日常実践

- ①学習活動を通して、身に付けさせたい知識・技能を繰り返し活用し、定着を図る。
- ②教科等の「見方・考え方」を働かせ、個の学びを保障しながら協働的な学びにおける対話の質を高める学習活動を仕組む。
- ③振り返りを通して学びを自覚し、授業とのつながりを意識した家庭学習につなげる。

教科におけるつけたい資質・能力を
明確にした適切な評価の実施

- ①教科においてつけたい資質・能力を明確にした単元を構成する。
- ②具体的な評価規準を作成し、児童生徒と共有する。
- ③本時における子どもの学びを評価するための評価問題・活動を必ず実施し、児童生徒の学習改善・教師の指導改善に生かす。

児童生徒質問紙と学校質問紙の分析を行い、
校内研究のレベルアップにつなげる

- ①日々の授業及び学力調査から、誤答やつまずきを分析し、授業改善に生かす。
- ②全教職員による取組の共通実践と検証の積み重ねを行い、C（チェック）A（アクション）の充実を図る。（アクションプランの活用等）
- ③発達段階に応じた、計画的かつ必然性のあるICT活用を推進する。

学校における育てたい資質・能力の明確化

資質・能力を確実に育成するための授業改善の日常化

教科の本質に迫る“教材研究” —授業づくりにあたって—

- 学習内容の学習指導要領・解説書における位置づけ等を確認していますか？
- 単元及び本時でつけたい資質・能力を明確にし、目標と評価方法が具現化されていますか？
- 「習得・活用・探究」のバランスの取れた単元構成になっていますか？
- 「見方・考え方」を働かせている具体的な子どもの姿をイメージできていますか？

“自分事”となる課題設定 —「？」を引き出す—

- 学びの連続性から生まれる、子どもの疑問や必要感を基にした課題になっていますか？
- 課題の追究が、本時のねらいの達成につながっていきますか？

教師の適切な“かかわり” —「学び」を深める—

- 働かせたい「見方・考え方」が明確に見えていますか？
 - 子ども一人ひとりの声や思考に、耳と心を傾けていますか？
 - 思考のズレや差異を焦点化して、子どもに問い返していますか？
 - 個々の思考の再構築の時間を確保していますか？
- ※グループ学習においても一人ひとりの見取りをていねいに行い、学びを深める教師のコーディネートを大切にしましょう。

“見取りと評価の精度”を上げる —個別最適な学びにつなげる—

- 評価規準を具体化し、子どもと共有していますか？
 - 評価問題を活用し、一人ひとりの習得状況やつまずきを見取っていますか？
 - 学んだことを整理・確認する視点を与えて振り返りを行っていますか？
- ※本時のねらい（つけたい力）が達成できたかどうかを、先生も子どもも確認していくことが「確かな学力」の育成につながります。

教師の指導改善 & 児童生徒の学習改善へ生かす

つながり・支え合う「関係づくり」

主体的に考え・判断する
“自治的な集団づくり”

「わからない・教えて」と言える
“聴き合える関係”

全ての子どもの
“居場所づくり・絆づくり”